



タシャ アデリナ
伊藤研究室

Mangrove Floating Village スラム規制とマングローブ保護

敷地：ムアラ・アンケ、ジャカルタ
用途：住宅街、パブリック空間



多目的スペース・住宅街・釣り堀

Illegal housing problem

北ジャカルタは不法移民が最も多く、ジャカルタで最も急速に沈んでいく地域である。マングローブ保護林の隣にあるジャカルタの主要な漁業中心地の一つであるムアラ・アンケを洪水から守る堤防に沿って、多くの違法住宅が見られる。これらの違法住宅は、適切な構造を持たず、生活する空間として状態も良くない。これらの家の存在は近くのマングローブ林を脅かしている。

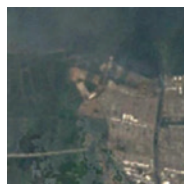
Life from land to water

インドネシアの歴史により、スルタン時代に庶民は土地を所有することができなかった。そのため、庶民や移民は水辺に筏の家を建てるようになった。このコンセプトを再現し、違法住宅問題の解決、居住者の生活の質の向上、マングローブ林や堤防を破壊しないようにスプロール化の抑制である。更に、地域に新しい価値を与えることを目指す。将来的には、これらの住宅を別の場所に移動させることも可能である。住民達は住環境の変化にゆっくりと適応していくことができる。

Dissapearing green space



1940
ムアラ・アンケ湿地



1985
漁業地区になった5年後



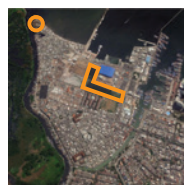
2004
違法住宅建てられていく



2009
北のマングローブ林小さくなった
ボートがマングローブの森に侵入する



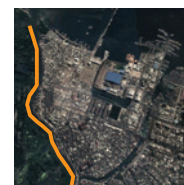
2013
違法住宅増加



2015
水域が小さくなった
北マングローブ林なくなった



2017
水域が更に小さくなった
北マングローブ林再生



2022
マングローブ保護地区の輪郭が
小さくなった

Design phases



phase 1:
住宅地の再開発
北の住宅地を移動させる



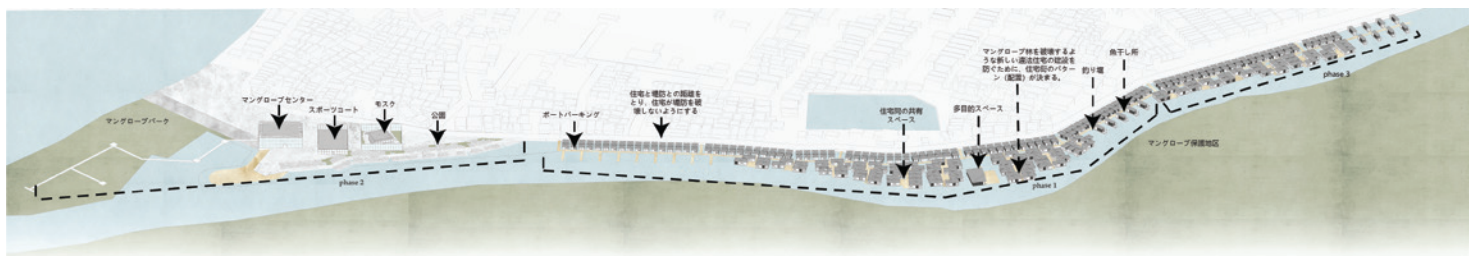
phase 2:
パブリック空間の撤出
マングローブ林の再生



phase 3:
住宅街の延長



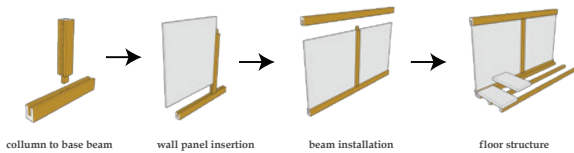
phase 4:
住宅街移動
マングローブの保護に重点を置く



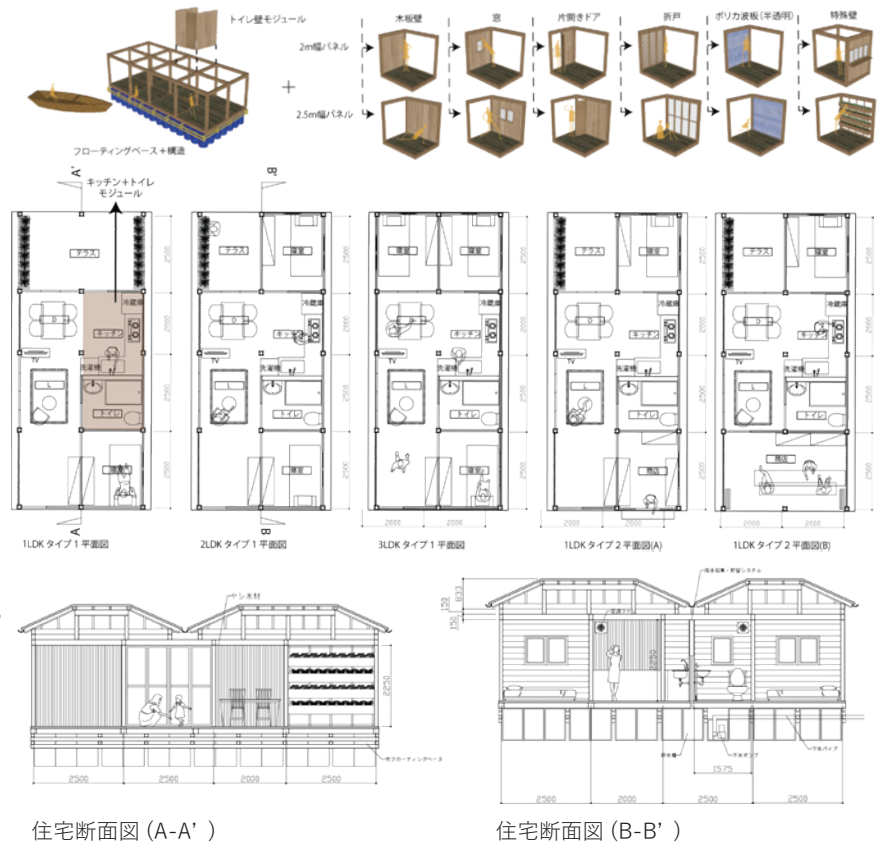
Floating homes: 1R modular thinking

ワンルームアパートを見ると、日常生活の多くはベッドルームの広さで済ませることができる。現地調査による平均寝室面積に基づいて、一つのモジュールルームは2×2.5㎡に設定する。壁パネルの種類や配置を変えることでさまざまなインテリアの可能性が生まれる。キッチン・トイレのモジュールセットは2×4.5㎡であり、雨水フィルターやパイプスペースを組み込んだ特殊な壁が設置されている。壁と屋根の間には隙間があり、自然な換気ができる。

家の種類は2つ: 住宅のみのタイプ1と表側に warung(商店)のある家のタイプ2。各モジュールルームは家族のニーズに応じて用途を変えることができる。タイプ1は1~3ベッドルーム、6名まで収容でき、タイプ2は1~2ベッドルーム、最大4名まで収容可能である。



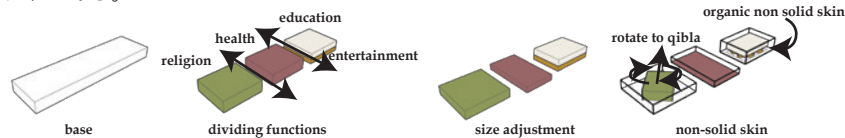
建設が容易なようにすべての部材が同じ構造パターンで作られる。この構造はインドネシアの伝統的なランティング(筏家)の構造である「ラン・パチノ」(ほぞ組の一種)をベースにしている。



住宅街には多機能スペースや魚干し所などの共有スペースが設置される。これらの共有スペースの周辺に村の持続可能性を高めるための釣り堀が配置されている。

Public area: blending with surroundings

公共エリアは教育、社会、娯楽を一カ所でつなぐものとして作られ、公共図書館、管理事務所、モスク、スポーツコート、公園などが配置する。建物を周囲の環境と調和させ、人々に自然を身近に感じてもらうとともに、環境に対する意識を高めることはコンセプトである。



建物にはほとんどソリッドな壁がなく、2mmの薄いアルミ板でできた「風のヴェール」のようなファサードで包まれる。周囲の景色が映り込み、風が吹くと模様ができる。



潮位の変化により、公園の形や大きさは時間帯によって変化する。最低潮位が午前3時(0~0.3m)、最高潮位が午前11時(1~1.2m)に設定されている。一日を通してさまざまな体験ができる。

